



令和 5 年度
学校案内



筑波大学附属桐が丘特別支援学校

「生き方探求」の場、 桐が丘

新校舎での学習をスタートさせ、明るく広い校舎で、児童生徒はのびのびと、つながりのある学びを追求しています。昨日とつながり、仲間とつながり、未来へとつながろうとしています。

当校では、「生き方を探求する児童生徒の育成」を目指しています。一人一人の児童生徒が可能性を伸ばし、好きなことを見つけ、一生をかけてやりたいことを探してほしいと願っています。この点は、どんなに障害の重い児童生徒でも変わらないと信じています。

開校以来60年以上、当校は、全国の関係者とともに、よりよい肢体不自由教育を求めて交流を続けてまいりました。今、4階建てのシンボリックな拠点を得て、研究拠点として次の3つの取組を力強く推進してまいります。

- 1 遠隔合同授業により全国の仲間と学びを深める
- 2 障害の重い子供の各教科の授業の桐が丘モデルを提案する
- 3 児童生徒主体の自立活動の学習の在り方を発信する

児童生徒の皆さん、桐が丘で様々なことにチャレンジし生き方を探求していきましょう。

教員及び関係者の皆さん、肢体不自由教育の充実に向けて一緒に取り組んでまいりましょう。

校長 篠塚 明彦



教育目標

教育基本法及び学校教育法、学習指導要領の示すところにより、肢体不自由及びその他の障害を併せ有する児童生徒に対して、個々の個性と障害の実態に応じた教育を行い、豊かな人間性をもち、主体的に自立と社会参加を目指し、生涯にわたって自己の生き方を探求していく人間を育成する。

学級編制

本校

小学部	普通学級・特別学級	6	1学年の定員6名
中学部	普通学級3、特別学級3		1学年の定員9名
高等部	普通学級3、特別学級4		1学年の定員11～12名

施設併設学級

小学部	普通学級1、特別学級4	5学級の定員18名
中学部	普通学級1、特別学級2	
高等部	特別学級1	中学部・高等部4学級の定員15名

沿革

昭和27年9月1日

整肢療護園（日本肢体不自由児協会経営、現心身障害児総合医療療育センター内）の要請を受け、東京教育大学附属小学校の講師2名により、同園児の教育を開始

昭和33年4月1日

東京教育大学教育学部附属養護学校として開校

昭和35年4月26日

東京教育大学教育学部附属桐が丘養護学校と改称

昭和53年4月1日

筑波大学附属桐が丘養護学校となる

平成16年4月1日

筑波大学が国立大学法人化される

平成19年4月1日

国立大学法人筑波大学附属桐が丘特別支援学校と改称

時間割（例）

小1

	月	火	水	木	金
登校	8:30～8:40				
HR	8:40～8:45				
1	国語	国語	国語	国語	国語
2	自立	国語	自立	国語	自立
3	合同生活	算数	算数	音楽	道徳
4	算数	生活／音楽	体育	算数	体育
給食					
5	〔国語〕	生活			図工
6	〔国語〕	特別活動			図工
学活	15:20～15:30	13:20～13:30	15:20～15:30		
下校	15:30～15:40	13:30～13:40	15:30～15:40		

※「／」は前期／後期 ※小学部は45分授業

中1

	月	火	水	木	金
登校	8:30～8:40				
HR	8:40～8:45				
1	国語	理科	自立活動	美術	社会
2	保健体育	社会	国語	社会	自立活動
3	数学	音楽	理科	保健体育	英語
4	英語	英語	数学	保健体育	理科
給食					
5	家庭／技術	総合的な学習の時間	道徳	前：国語／後：数学	数学
6	家庭／技術	学級活動		英語	国語
学活	15:20～15:30	14:20～14:30	15:20～15:30		
下校	15:30～15:40	14:30～14:40	15:30～15:40		

※中学部は50分授業

高1

	月	火	水	木	金
登校	8:30～8:40				
HR	8:40～8:45				
1	選：音楽Ⅰ／美術Ⅰ	数学Ⅰ	情報Ⅰ	論理・表現Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ
2	選：音楽Ⅰ／美術Ⅰ	言語文化	数学A	現代の国語	論理・表現Ⅰ
3	体育	数学A	体育	自立活動	情報Ⅰ
4	体育	現代の国語	英語コミュニケーションⅠ	数学Ⅰ	言語文化
給食					
5	英語コミュニケーションⅠ	総合的な探求の時間	数学Ⅰ	歴史総合	生物基礎
6	歴史総合	LHR		生物基礎	保健
HR	15:20～15:30	14:20～14:30	15:20～15:30		
下校	15:30～15:40	14:30～14:40	15:30～15:40		

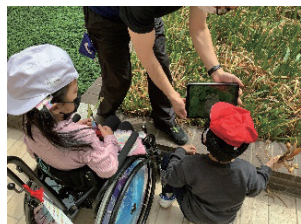
※高等部は50分授業

小学部

対話の質を高め、自ら学ぶ力を育てる授業づくり



小1・2 体育



小3 理科



小5・6 総合的な学習の時間



小5 算数



小1・2 校内キャンプ

教育目標に向けて、一人ひとりの子どもの能力や特性、また発達や障害の状態に応じた教育を進めます。特に各教科等の授業においては、学習課題との対話とともに、友達や、周囲の人たちとの対話も大切にしています。これらの「対話」によって、子どもたちが考えを広げたり、深めたりする力をつけ、また、自分自身で学んでいく力をつけることを目指します。そして、それらを支える自立活動の指導は、個別の指導計画に基づき、評価・改善を繰り返しながら進めています。



桐が丘の学び「合同道徳」

(2学年合同または6学年合同での道徳)

1年生から6年生の異なる年代が集まり学習します。いろいろな価値観や多様な考えに触れ、自分がどう生きたいか考えます。これらは、合同道徳の児童たちの感想です。

(小1児童)「みんなかんがえが ちがうんだとおもいました。」

(小6児童)「それぞれ感じたことが違うので、気付いたこと・感じたことをみんなで分かち合うことはとてもいいことだと思った。昨年よりも皆で話す時間が増えた。」

中学部

将来像を思い描き、身近な社会に積極的に参加していく

中学部では、「豊かな人間性と生活の基礎となる力を育み、自らの将来像を思い描き、身近な社会に積極的に参加していこうとする生徒を育てる」を目標として掲げています。

これらの教育目標を達成するために、個に応じた教育を基本とし、学習内容の習熟度に応じて各学年を2グループに分けて指導を行っています。また、将来の進路に向けて漢字検定や数学検定等の資格取得にも力を入れています。



桐が丘の学び 総合的な学習の時間「校外へ行こう」

これまで学んできた力を生かして、学校から離れた場所で活動します。移動手段や活動計画は生徒たちが立案し、自分たちの力でいきます。様々な困難はありますが、協力し合って問題を解決していく中で問題解決の資質や能力を身に付けていきます。生徒は自己理解や他者理解を深め、身近な社会とのつながりを実感し、自己の生き方を考える力を深めていきます。



他の特別支援学校との遠隔合同授業



技術の授業 (ティッシュケースづくり)



タブレット端末の活用



理科の授業 (イカの解剖)



主体的に考え、社会の中で生涯にわたって 自己の生き方を探求していく

高等部では、「将来の生活に向けて、豊かな人間性と生活を営む力を育み、主体的に考え、社会の中で生涯にわたって自己の生き方を探求していく生徒を育てる」を目標として掲げています。

これらの教育目標を達成するために、各教科、特別活動、総合的な探求の時間などを通じて自己理解を深め、職場見学・職場体験に参加することでより具体的に将来に向けて自分の生き方を考えていきます。



桐が丘の学び 総合的な探求の時間 「これから生きる社会と自己の生き方」

中学部で培った力をより多様で広範囲な場面で発揮し、高め、卒業後の社会参加、自己実現を目指していきます。生徒は自分を知り、多様な世の中を学び、自らの歩み方を模索し、自分の生き方を自己選択・自己決定していきます。

卒業生の進路状況

年度	進路	大 学	専修学校等	就 職	就労移行支援	就労継続支援	厚生施設	その他
					訓練校等	生活介護		
令和元		7	0	0	1	0	0	0
令和2		4	0	0	1	0	0	2
令和3		7	1	2	0	0	0	0
令和4		5	0	1	3	0	0	0

卒業時の進路先（令和元年度卒業生～令和4年度卒業生）



タブレット端末を活用した授業



桐が丘祭（駄菓子屋出店）



附属坂戸高校との交流活動



職場体験



スポーツ部



バンド部

卒業生からのメッセージ

Q1：現在どのような日々を過ごしているのでしょうか？

Q2：桐が丘の学びは今の生活にどのようにつながっていますか？

鯉淵羽飛さん（令和2年度卒業）
文京学院大学人間学部人間福祉学科

A1：現在、福祉を学ぶ大学3年生です。誰もが暮らしやすい社会を目指して、日々励んでいます。障害当事者として、車椅子での生活や取り組みをYouTubeで発信する活動もしています。

A2：桐が丘では、行事や総合の時間などで、生徒同士でコミュニケーションをとりながら準備をしていくことがたくさんありました。現在の生活において、グループワークや資料作成をして発表（プレゼン）をするなど、様々な人とやり取りをする機会が多くありますが、桐が丘での経験が生かされていると感じます。

手島敬之さん（平成30年度卒業）
板橋区役所

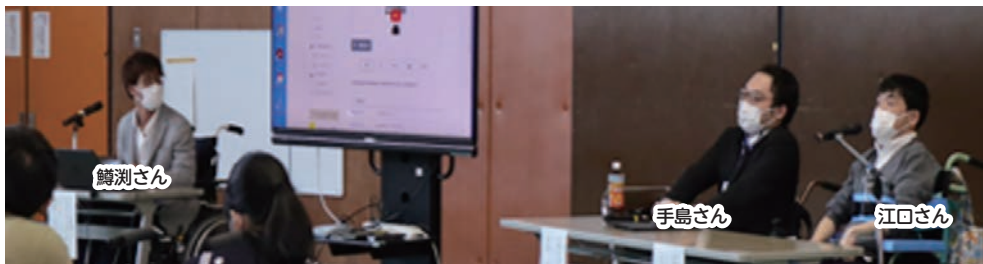
A1：現在は、板橋区役所で区民の皆さまのためにお仕事をしています。仕事をする中で、障害や先生とともに試行錯誤をし、どうやらうまくいくかを考えることが身につきました。自分への理解も一層深まったように思います。

A2：桐が丘では、あらゆる授業において、仲間や先生とともに試行錯誤をし、どうやらうまくいくかを考えることが身につきました。自分への理解も一層深まったように思います。

江口可晃さん（平成25年度卒業）
板橋区立小茂根福祉園

A1：現在、福祉園で販売する製品を制作したり、利用者の皆さんの代表として、レクリエーションの企画をしたりするなどの役割を担っています。

A2：桐が丘での様々な授業で得たことが、現在の生活において“楽しく過ごす”ことにつながっていると思います。また、在学時に出会い、高校生活を共に過ごした友人とは、今でも連絡を取りあい、良い関係を築いています。



令和5年度進路懇談会の様子

施設併設学級

社会や世界と関わり、 よりよい人生を送れるような力を育む



校舎



中庭

心身障害児総合医療療育センターに併設された施設併設学級には、様々な発達段階の児童生徒が在籍しています。どの児童生徒に対しても、各教科等の指導を通して、理解していることやできることを使い、社会や世界と関わり、よりよい人生を送れるような力を育むことを目指しています。算数の世界に没頭する中で形の違いに気付く、主体的に身体を動かしてスポーツの楽しさを味わう、といった学びを通して、子供たちの世界が豊かになり、可能性を広げられるよう、研究と実践に取り組んでいます。



五感をフル活用（修学旅行）

桐が丘の学び「算数の世界に没頭し、 形の違いに気付く」算数科の授業



箱やボールで遊ぶことに没頭できるような仕掛けを工夫しています。遊び続けると、自ずと形の違いに気付く、箱を持つ時とボールを持つ時の手の使い方に違いが見られるようになります。

桐が丘の学び「意図を感じ取り、 動きを引き出す」保健体育科の授業



「椅子やブランコが揺れるのが楽しい！もっと揺らしたい！」という意図を感じ取り、動きを引き出す関わりを工夫しています。自ら運動を楽しめると、豊かなスポーツライフにつながります。

当校の実践



研究協議会のオンライン配信の様子



教員対象の公開講座



イングリッシュルーム（放課後）

桐が丘特別支援学校は、「障害の重い子どものための各教科の授業づくり」や全国の特別支援学校との「マッチングサイトを活用した遠隔合同授業」など我が国の教育をリードするための研究と実践を積極的に発信しています。また大学の研究への協力、及び教育実習の受け入れを通じて、教員養成などの役割を担っています。また、肢体不自由児教育の実践を活かして、現職教員を対象とした協議会・研修会の開催、短期及び長期研修の受け入れによる現職教員研修も行っています。さらに当校では附属学校の国際化を組織的に推進することを目指し、放課後や長期休業中にイングリッシュルームを通じて、英語を学習する機会をもうけています。高等部では英語力を生かし、総合的な探求の時間で、筑波大学大学院留学生との国際交流を行っています。

学校行事



運動会



学習発表会



桐が丘祭



小学部5・6年日光移動教室(1泊2日)



中学部高尾方面宿泊学習(1泊2日)



高等部3年京都大阪修学旅行(3泊4日)

令和5年度 公開行事・入学選考日程

運動会 9月30日(土)

学習発表会・桐が丘祭 11月3日(金)・4日(土)
(詳しくはHPをご覧ください。)

学校見学日

5月23日, 6月13日, 7月11日, 9月12日(いずれも火曜日)
(学校紹介映像公開・オンライン相談会を実施しています。詳しくはHPをご覧ください)

入試説明会 9月2日(土)

体験授業・授業見学

小学部10月19日 中学部10月5日

高等部10月12日

令和6年度入学選考

出願書類配布 令和5年10月16日(月)～11月4日(土)

出願書類受付 令和5年11月15日(水)～11月17日(金)

入学選考日 令和5年12月20日(水)・21日(木)

合格発表 令和5年12月26日(火)～令和6年1月5日(金)

筑波大学附属桐が丘特別支援学校

本校

〒173-0037 東京都板橋区小茂根2丁目1番12号

電話 (03)3958-0181・0184

施設併設学級

〒173-0037 東京都板橋区小茂根1丁目1番10号

電話 (03)3956-0181・6149

<https://www.kiri-s.tsukuba.ac.jp/>



施設紹介



新校舎



床暖房つき自立活動室



中庭



体育館



スロープ



スクールバス



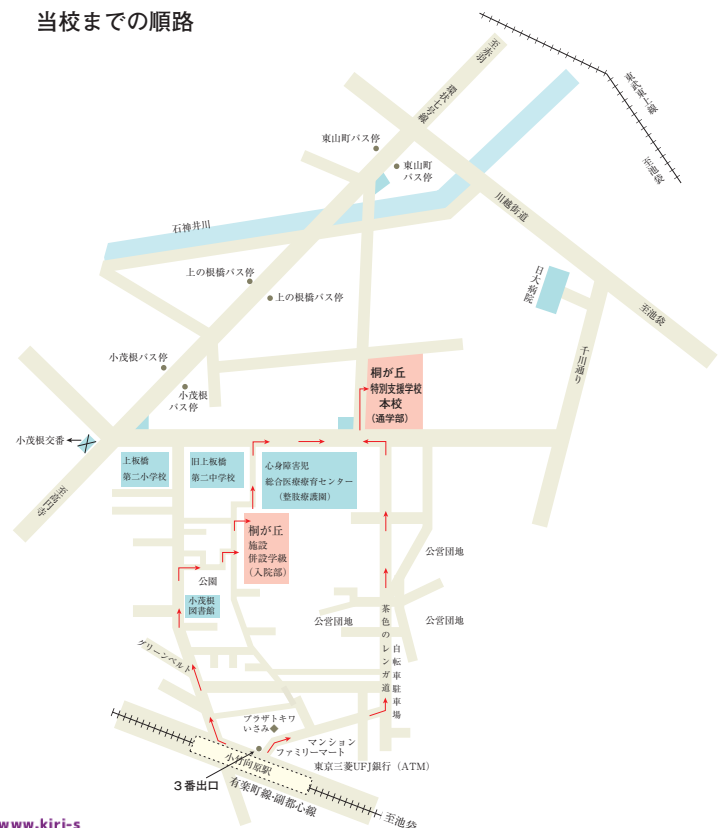
エレベーター

学校給食について

本校の小学部から高等部の児童生徒に給食を提供しています。(※施設併設学級は整肢療護園に戻って昼食をとります。)校内で調理し、季節ごとに旬を感じられる献立・日本や世界の郷土料理献立・リクエスト献立などもあります。食事の形態は普通食です。食物アレルギー等の個別対応については、家庭・医療と連携して行います。給食時間をはじめ様々な場面で「食に関する指導」を行い、食に関わる資質・能力の育成を目指していきます。



当校までの順路



◎東京メトロ有楽町線、副都心線「小竹向原駅」(3番出口)下車、本校(通学部)徒歩13分、施設併設学級(入院部)徒歩6分。

◎JR赤羽駅東口より国際興業バス・関東バス高円寺北口行「上の根橋」(本校)又は「小茂根」(施設併設学級)下車、所要時間約30分、また、逆方向もある(所要時間約40分)。徒歩5分